

発行 日本音楽療法学会

理事長 日野原重明 副理事長 松井 紀和

事務局 〒105-0013 東京都港区浜松町 1-20-8 浜松町一丁目ビル6階 TEL 03(5777)6220 FAX 03(5401)0337



第5回学術大会を終えて

大会長

柏木 哲夫（金城学院大学学長）

第5回日本音楽療法学会学術大会が2005年9月9日の講習会に続いて、10日、11日と名古屋市金城学院大学を会場に開かれました。会場が市内の中心部から少し離れているので、参加者が少なくなるのではと心配したのですが、約2000名の方々が集って下さり、会長として、胸をなで下ろしました。大会期日は愛・地球博の開催中でしたので、大会の前後に万博会場まで足を延ばされた方もおられたことでしょう。

第5回大会のメインテーマを「いのち・ころ・いやし」と音楽療法とさせていただきます。このテーマは大会長をお引き受けする時、すでに私の中にあり、実行委員会の中でもお認めいただきました。実は「いのち・ころ・いやし」の三つは金城学院大学の教育目標のキーワードなのです。そして、私の音楽療法との関わりの中から、この三つのキーワードは音楽療法がめざすものと深く関係していると感じています。そこで、プログラム全体をこの三つのキーワードを意識しながら組む事に致しました。まず、特別講演の講師にノンフィクション作家の柳田邦男先生におこしいただきました。先生のお話は実にテーマにふさわしく、会員に深い感動を与えました。シンポジウムは栗林文雄先生の司会のもと、「音楽とスピリチュアリティ」という題でもたれました。三人のシンポジストはそれぞれ個性豊かな方々で、会員に大きなインパクトを与えて下さいました。一般の口演もポスター発表もそれぞれ充実したものであったと感じています。

講習会は門間陽子先生に責任者になっていただき、今回は初めての試みとしてレポート作成、添削というプログラムを組み、好評でした。

ピアノ演奏や、ハンドベルの演奏もプログラムに組み入れましたが、それぞれ多くの方が聞いて下さいました。

残念だったのは会場のスペースの関係で懇親会が二会場に別れてしまったことです。皆が一堂に会することができなかったことをお許し願いたいと思います。

会長としてとてもうれしかったのは多くの実行委員、

東海支部の会員、大学の職員、ボランティア、学生など大会の準備と当日の運営に関わってくれた人たちが素晴らしいチームワークを組み、見事な運営をしてくれたことです。参加者から、「学生さんはとてもきびきびして品がありますね」と言っていたいただき、学長として、とてもうれしかったです。

プログラムがすべて終わってスタッフが一堂に会した時私は「ホントに、ホントに、ホントに有り難うございました……」と「ホントに」を三回繰り返しました。皆で協力して一つのことを成し遂げたという充実感強い感動を呼びます。多くの学生やスタッフが泣き出しました。お世話をしてくれた業者さんも泣き出しました。私も熱いものが込み上げてきて準備委員長を抱きしめてしまいました。若き人妻を人前で抱擁したのは勿論初めてでした。

スタッフが気付いていないところで、ご不自由をかけたか、いたらなかった点多々あったことと思いますが、どうぞお許し下さい。参加して下さいの方々のご協力に心より感謝して、ご報告に代えさせていただきます。



第6回日本音楽療法学会学術大会に向けて—第一次案内—

大会長 遠藤 安彦

《大会開催について》

この度、第6回の学術大会のお世話をさせていただくことになりました会場校となる宮城学院女子大学の遠藤です。ご挨拶に代えて、東北支部が開催をお引き受けした経緯について、最初にお話をさせていただきます。

会員の少ない東北支部に、喜ばしくも数年前に大会開催のオファーが一度ありました。ご記憶にある方も多いと思われる。他地区に先駆けて、早々に支部を立ち上げてくださった前役員の皆様のお蔭です。しかし、支部組織は出来たとはいえ、その当時は支部の運営で手一杯。さらにオファーの時期は、開催時期の1年前を割り込んでおりました。学術大会の開催準備には、最低1年半から2年は必要と支部役員の誰もが思っておりましたから、申し訳なかったのですがお断りさせていただきました。

今回、スタッフは前回と同じですが…いや絆は少し強くなりましたでしょうか、前述の開催条件はクリアーされ、お断りしたり、他支部へお願いしたりする理由はナシとして、お引き受けする結果となった次第です。

大会長は支部長、会場は支部長所属の大学キャンパス。合議制の東北支部と学会施設に欠ける東北の、簡単な結論ですが、おもてなしは抜群！だそうです。

東北を陸の奥(!?)として遠い所と思われるようですが、陸・海・空路のいずれでもおいでいただける仙台へ、どうぞお気軽にお出かけ下さい。奥座敷には温泉を用意しております。

《日時・会場》

2006年8月25日(金)に講習会を、8月26日(土)と27日(日)に学術大会を、いずれも仙台市青葉区桜ヶ丘の宮城学院女子大学のキャンパスにて開催いたします。

当初の9月1日～3日を1週繰り上げたことで、会員の皆様には多大のご迷惑をおかけすることとなりました。深くお詫び申し上げます。近く想定される宮城県沖地震の耐震工事について、文部科学省からの助言・補助でのこの2年内の工事終了計画を実施中です。工事については十分に安全に配慮しており、当日の学会活動に影響を与えることは皆無ですので、安心して大会にご参加していただけます。

《メインテーマ；音楽療法における「感」と「知」を考える》

第6回大会は、“音楽療法における「感」と「知」を考える”としました。何でも相談して決めようという“開かれた”東北支部では、過去5回のテーマ、講師、演題等々を支部会員全員に送付して意見聴取し、実行委員会事務局が鋭意整理整頓し集計した意見を元に、実行委員会で時間をかけて検討

した結果です。「感」と「知」ということで、海外招待講演講師には、世界を飛び回り、現在は南アフリカを拠点に活動しているメルセデス・パヴリチェヴィック博士をお願いしました。

音楽療法のアイデンティティーという意見を取り入れ、複数のシンポジウムを設定したい、という計画もあり、現在ドイツ在の多田房代氏には講演やワークショップもお願いしております。

全体的に、「習う」から「学ぶ」姿勢の“大人の”学会にしようと思気込んでいるところで、講習会の持ち方についても新しいアイデアがきっと皆さんを楽しませてくれると思いますし、研究発表についても今後の学会の方針を決定付けるようなスタイルになることと、信じて疑いません。楽しく参加し、学べる学会へが合言葉。

学内では、礼拝堂にドイツ様式、音楽科小ホールにはフランス様式のパイプオルガンが設置されていて、オルガン専攻の学生による演奏が随時聴けるよう検討中です。またミニコンサートでは、和太鼓のグループの演奏も予定しております。

【第6回日本音楽療法学会学術大会実行委員会】 組織

大会長	遠藤 安彦
実行委員長	智田 邦徳
事務局長	須佐 凉子
次長	猪狩 裕史 渡邊 恵里
企画委員長	原沢 康明
学術研究委員長	佐治 順子
講習会企画委員長	高山 仁
—他—	

【開催日時】

2006年8月25日(金)：講習会
26日(土)：学術大会第1日目
(研究発表・シンポジウム・特別講演)
懇親会
27日(日)：学術大会第2日目
(研究発表・大会長講演)
総会

【開催地】

仙台市青葉区桜ヶ丘 宮城学院女子大学キャンパス

【事務局】

大会問い合わせ先⇒東北支部事務局(年内)
2006年1月より仙台市内に設置します。

■ 日本音楽療法学会 研修・講習会のご案内 ■

研修・講習委員会

委員長 智田 邦徳

昨年から新委員による講習会を企画開催しておりますが、多くの反省を踏まえて今年度は更に会員の方々にとって身近でかつ有効であろうと考えられる企画を立てました。

音楽活動は諸感覚を統合すると云われますが、それはなぜ？これまでも各地で「感覚統合」の講演会が開催されましたが、音楽療法とどのような関係があるか今ひとつ分からないと言う声もチラホラ。そこで今回はアメリカのアリゾナ州からシェリル・ケリー先生を招聘することにしました。シェリル・ケリー先生は（アリゾナ州子ども神経発達研究センター音楽療法主任 MT-BC）感覚統合理論を基本に音楽療法のプログラムを開発し、その実践と研究は全米でも高く評価されています。先生は以前、感覚統合国際学会が日本で開催された折講演をされ、その後感覚統合研究会が招聘、2回の来日では10都市以上に及ぶ講演をされました。感覚の統合を促すことは音楽療法の対象者全てに必要なことと思われるので、どうぞふるって多くの方の参加をお待ちします。また前回のアンケートで希望が多かった認知症の方の回想法、事例を基にしたレポートの書き方も企画しました。

2006年、月・日・時間	内容	講師・司会
2月18日（土）12：30	受付開始	
13：00～13：20	開会挨拶 ガイダンス、倫理のガイドライン	委員長；智田 邦徳 事務局、倫理委員会
13：30～15：00	感覚統合の概論	講師；木村 順（療育塾ドリームタイム） 司会；高山 仁
15：15～17：15	感覚統合と音楽療法（1）	講師；シェリル・ケリー 通訳；岩田 清美、柿崎 次子 座長；木村 順
2月19日（日）9：00	受付開始	
9：30～9：50	ガイダンス、倫理のガイドライン	事務局、倫理委員会
10：00～12：00	感覚統合と音楽療法（2）	講師；シェリル・ケリー 通訳；岩田 清美、柿崎 次子 座長；木村 順
13：00～14：30	回想法と作業療法 認知症高齢者に対する取り組み	講師；来島 修志（日本福祉大学高浜専門学校・ 作業療法士） 司会；赤星多賀子
14：45～17：15	レポートの書き方	講師；岩永 誠（広島大学） 司会；宍戸幽香里
17：20～17：25	閉会挨拶	副委員長；宍戸幽香里

* 講師の都合により講師を変更する場合があります。その時は悪しからずご了承下さい。

The 11th World Congress Of Music Therapy (第11回世界音楽療法大会) 印象記

評議員 宍戸 幽香里

第11回世界音楽療法大会が、オーストラリアのブリスベンにおいて7月19日から23日まで開催された。今回の会場となったコンベンションセンターは街の中心部から徒歩約15分に位置し、大きな穏やかな流れのブリスベン川を渡ってすぐのところであった。この周辺はクイーンズランドの芸術の殿堂といわれる地区で、博物館や美術館、パフォーミング・アーツ・コンプレックス、図書館などが並んでおり、しかも入場料が無料がゆえにプログラムの合間をぬって度々近郊の美術館や博物館にも足を運ぶ楽しみもあった。

今回の参加国数は25カ国、350人弱との報告であった。今回の大会テーマは「子守唄から葬送歌まで」であり、会場は広く、それに加えオーストラリア人気質もあるのか何もかもがのんびりゆったりの日々だった。基調講演はそのテーマに添って、オーストラリアのルース・ブライト他2名の音楽療法士らによって行われ、音楽療法が全ての人間の人生に有効的に関わることが出来るという真実を再確認させられたものであった。オープンセレモニーで演奏されたアボリジニーの女性の歌声は、これぞ魂に響く声かと思われのような感動を覚えるもので、数ヶ月たった今もなおその鳥肌が立つような声の響きを思い出す。大会2日目からは研究発表やワークショップ等がはじまり、口頭発表、ポスター発表の会場はどこも熱気があふれていた。180を超える研究発表の中で発表数が最も多かったのは地元、次にアメリカ、イギリスであった。この3国による研究発表が全体の約6割を占めていたことは、オーストラリアが地元の開催国であったことを考慮しても、アメリカとイギリスが現在もお世界音楽療法の中心的役割を担っていると同時に、今後の世界の方向性をも示唆するものと思った。また基調講演のみならず研究発表では世界の中心的存在である音楽療法士らがきちんと自らの発表を行っていたことは、世界大会の醍醐味であると同時に、経験の上にあぐらをかくことなく実践と研究の両輪を積み重ねる真摯な態度はわが身を振り返るには十分であった。ワークショップ

ではカンザス大学やフロリダ大学院生が企画したものやブラジルのフォークソングとダンス、パーカッションの即興などがあったが、ワークショップによっては「講師の希望により20名で締切」の張り紙が突然掲示されるものもあった。それならば翌日のワークショップには是非と、朝食抜きで7時半に会場入りしてもなお参加できなかった人達が憔悴してその場に座り込む姿は気の毒を絵に描いたようなものだった。私は？そこは年の功、今だからこそ言えることだがワークショップが始まる寸前に速やかに会場に入り、2回も参加を楽しんだ。とくにブラジルのフォークソングとダンスは参加人数が最も多く、会場全体がヒートアップして肩を組み合って飛んでは跳ね、日頃のストレス発散の場と化した。私自身英語からの解放感を味わった瞬間であり、この時ばかりは人種や言葉の壁を越えて参加者の気持ちが一体化した時間と感じられた。休憩時間には、アメリカやイタリア、オーストラリアの人から「日本の音楽療法を知りたい」と言われ返答に困惑していたところに、世界音楽療法大会の役員（臨床実践委員長）に初めて東南アジアからの代表として佐治順子氏が選出されたとのニュースが飛び込んだ。佐治氏が選出されたことで日本を含め東南アジアの音楽療法を世界に発信することが世界の音楽療法士らから期待されていることは容易に理解できる。その他今回のポスター発表に、日本人の留学経験者を含め多くの若い音楽療法士らが健闘していたことは頼もしい限りである。「実践と研究をこれからも頑張るね」と励ますと「次の世界大会に先生も発表して下さい」と藪蛇だった。「英語が出来ること＝優れた音楽療法士ではないのですね」と励ましてくれたが、色々な発表を聞いて優れた実践家は日本にも沢山居るのに、それを世界に向けてアピールする努力をしないために、日本の現状が世界に伝わらないのではないかと危惧した。2008年の開催地、ブエノスアイレスへ向けてGO！（印象記執筆に当たり、二俣泉、米倉裕子両氏に協力頂いた）



カンガルーを撫でて癒される…



ポスター発表、質問を受け、アドバイスをもらってラッキーでした。

北海道支部 — 近況 —

支部長 久村 正也

全国の会員の皆様、こんにちは。

貴重な紙面をお借りして、北海道支部の近況をお知らせ致します。

当支部は設立3年を経て会員数も200名を越えました。まだ小粒ながら山淑のようにピリリとした心地よい緊張感が漂う学術団体に成長しつつあります。

当支部は年2回学術講習会を開催しておりますが、この講習会に工夫を凝らし、音楽療法士に必要な医学講義や心理療法に関する教育講演を必ず粗み込むようにしております。音楽療法家には医学の基礎知識が必要ですし、音楽療法を心理療法の一技法と位置づけた場合、他の心理療法についての知識を学んでおくことは必須のことと考えるからです。幸い両講義とも受講生には好評のようです。

支部ニューズレターは年3回発行し、学会全体の動き、支部評議員会議事録、会員動静、講習会案内などを記載し、会員の連帯強化に大きな役割を果たしております。

また、支部ホームページの運営も順調で、アクセス回数も増加してきました。

当支部のトピックとしては、第7回学術大会の札幌開催が決まったことで、早や大会に向けての基本的準備をスタートさせております。期日は2007年9月7日～9日の予定であります。大会準備状況は逐次報告させていただきますが、大会成功のためにも、全国の会員皆様の暖かいご支援、ご協力を心からお願い申し上げる次第であります。



東北支部 — 近況 —

支部長 遠藤 安彦

名古屋での第5回学術大会を、準備から片づけまで全て隅々まで見学させていただいた第6回主催の東北支部です。2005年に入ってから、11月に山形で開催する「支部大会」の準備委員会と並行して、第6回の学術大会の準備委員会そして実行委員会の立ち上げをしましたが、いまや各委員会が自分たちのプログラム作成に最後の追い込みをする時期になってきました。“参加してよかった”大会になるよう頑張ってますので、大いにご期待下さい。

山形の支部大会は、『「教わる」から「学ぶ」へ』の大会テーマで11月19日（土）と20日（日）に山形テルサで開催します。来年の全国大会主催を控えてか、研究発表の申し込みが少なく、実行委員会を悩ませているようですが、テーマに即した講演・シンポジウムに加えて更にワークショップと、充実した内容が魅力的です。自主的に音楽療法を勉強していく姿勢を、じっくり応援するプログラムです。

今年は支部役員選挙の年になってます。来年の全国大会の実行委員は、現在の支部役員を中心に組織されておりますが、この選挙での結果如何に関らず、大会の実行委員会は終了まで継続になることが了承されております。支部役員任期が2年となっていて、本部評議員の3年とのずれがおりますが、そこは支部の全員協力の体制で乗り切れると、支部会員の全員が納得しているところです。あー、良き支部哉！



関東支部 — 近況 —

事務局長 宍戸幽香里

12月10日（土）11日（日）の両日関東支部講習会・地方会を栃木県宇都宮市で開催します。大会長の遠山文吉氏の下に、宇都宮音楽療法研究会のメンバーを中心に実行委員が結成され、開催に向けて準備に追われています。

研究会のメンバーで実働可能な人が少なく、開催当日の人手も不足しがちで、それを解決する方法が課題となっています。関東支部は全体で2000人を超えますが、東京都、神奈川、埼玉県を除く他の県での地方会開催は、今回の宇都宮と同じ困難さを抱えることは予測できます。今後地方会の開催のあり方が課題となり、早急に話し合う必要があると思われます。

信越・北陸支部 — 近況 —

支部長 北本 福美

本年、6月11～12日宮下弘子会長、西巻靖和実行委員長の下、「今チームアプローチとしての音楽療法は」をテーマとして、第3回総会学術集会在長野にて開催された。大会講演の『医療機関における「音楽運動療法」』（講師：野田 燎）をはじめ、演題内容も年毎に内容の充実が増し、興味を参加者と分かち合った。

第4回学術大会は、海老原直邦会長の下、以下の通りの内容で、富山地区の学会員を中心に準備が進んでいる。

- ①開催年月日：2006年6月24日（土）～25日（日）
- ②開催場所：富山国際会議場（富山市大手町1-2）
- ③大会テーマ：「音楽は魂（たましい）と響き合う—音楽療法の根源をもとめて」
- ④大会プログラム：○第1日 レクチャーコンサート・講演・シンポジウムなど
○第2日 支部総会・研究発表・講習会など



東海支部 — 近況 —

支部長 都築 裕治

◆9月9日～11日、無事2005年大会を終えることが出来ました。大会運営は大変でしたが、準備を進めてゆく中で、支部内の会員のさまざまな結びつきが生まれて来たことが感じられ、とてもいいものをいただいたように思います。全国のみなさまからも励ましのお言葉をいただきました。この紙面をお借りして感謝申し上げます。◆さて、息つく暇もなく今度は2006年4月の支部大会が控えています。東海支部では、支部大会を各地持ち回りとしており、今回は静岡で行うべく準備をしております。

◆ところで、この10月中は東海支部役員選挙期間となっており、現在郵送による投票が行われているところです。東海支部の役員選挙は今回で2回目となり、前回の経験を踏まえて選挙規約の修正や、開票作業の効率化を考えた投票用紙の工夫等を行いました。（東海支部の役員任期は一期2年、再任は三期までとし、支部運営の役割を皆で代わり合っていくよう、支部会則を工夫してあります。）◆2006年4月の支部大会以降は、新役員による支部運営となります。



近畿支部 — 近況 —

支部長 安本 義正

近畿支部では、全国大会の日程が9月開催となったことを受けて、本年度の支部主催の講習会・予算総会を7月に開催し、学術大会を来年3月に開催することになりました。現在学術大会準備作業が着々と進められています。

本年度は会則の一部改正が行われ、特別委員会の見直し作業なども行われていますが、何と言っても大きな成果はメディア委員会によって、支部独自のホームページが開設されたことです。支部に関する様々な情報が掲載されていますので、支部ニュース（年1回）を補完するものとしても、会員にとって大いに活用が期待されると思います。近畿支部会員以外の方も、ぜひともご覧いただきたいと思います。（<http://www.jmta-kansai.com/>）

今後の大きな課題としては、近畿音楽療法学会誌の支部全会員への配布です。役員会では配布の方向になりましたので、3月の総会で承認されれば、2006年9月発行予定のVol.5から支部全会員に配布されることとなります。



中国支部 — 近況 —

支部長 武田千代美

中国支部は、前支部長の転出に伴う役員改選の結果、2005年2月より支部長武田千代美、副支部長松原まゆみ、事務局長木村敦子を三役とし、事務局も広島文教女子大学に移して活動しております。

よりよい支部を作るため、運営について見直し実行に移していく段階にあります。

ニュースレターは、内容の充実を図り、会員の学びとなるような記事を掲載していくこととしました。

支部主催の講習会は、年2回の開催とし、単発的なものではなく、その内容に継続性を持たせることとしました。学習領域に

偏りのないよう、カリキュラムガイドラインを参考に、音楽、福祉、教育の領域をまんべんなく学べるように企画します。

第5回中国支部大会・第6回講習会は10月22日（土）・23日（日）、日本赤十字広島看護大学において開催しました。講習会は、各領域から3講座を企画しました。

23日（日）の大会では村井靖児先生を教育講演にお招きしました。また、大会準備室企画の自主シンポジウムも初の試みとして企画されました。

さらに、第7回の講習会も、現在準備中です。

会員の皆様の積極的な参加に期待しております。



四国支部 ——— 近況 ———

副支部長 三崎めぐみ

昨年秋、おそまきながら立ち上がりました四国支部、やっと1年、どうにか無事にすごすことができました。思い返しますと、2004年8月、設立総会の日は大きな台風で直撃され大騒動でした。高速道路も一般道も絶たれ、陸の孤島と化した高知からの会員は、南国のインターで立ち往生。おそらくは、忸怩たる思いで参加できなかったであろう方々がたくさんおられたと聞いております。そして現在の山本恵子四国支部長もその中の一人でした。さて、この最近まれに見るエネルギーに支部長を中心に、たった5名の評議員ではありますが、「ガラス張りで見晴らしのいい運営」を合い言葉にここまでやってまいりました。このたった5名という人数は、わたくし的には家庭的でわかりやすい、なんともいい感じではないかと思っているのです。

支部ができるまで、四国各県の音楽療法研究会を運営するメンバーは、中央での情報量にどうやったら近づけるのか日々悩む毎日だったのではないかと推察します。支部の持つ大きな役割は、そこをバックアップできる組織作りだと思っています。まずは、今年2005年2月に四国支部第1回学術大会を高松で開催することができ、同年末には第2回を愛媛県（2005年12月4日松山市北条、聖カタリナ大学にて）で行うべく計画は着々と進んでおり、少しずつ思いが叶っているのではと、小さくガッツポーズを決めています。

これくらいのことで力のはいる四国支部はやはり、若葉マーク付きである事を自覚せざるをえません。しかし、たとえそうであったとしても、今はこのレベルのことを着実にやっと思っています。先輩の皆様方、その辺の所、どうぞご指導のほど、よろしく、よろしく願いたします。



九州・沖縄支部 ——— 近況 ———

支部長 齊藤 雅

九州・沖縄支部では2005年度支部講習会を去る8月14日に開催した。お盆の最中ということで参加者は例年より多少少なかつたものの70名の参加で、その分まとまりのある充実した講習会であったと思われる。「緩和ケア・ホスピスでの音楽療法」というテーマで、最前線で実践を行っている講師陣により、非常に貴重な体験に基づく講演が行われた。精神性、倫理観、死生観ひいては生き方への示唆に富んだ各講師の講演は、受講者に非常に深い感銘を与えた。

また「学会の現状と国家資格を考える（解説と質疑）」ということで、ディスカッションを行った。グループ討議とその結果の発表により、参加者から「常に情報を知らせてほしい」「現状では時期尚早」「拙速な資格では困る」という意見が寄せられ、これは理事会、役員会において必ず上程すべきであると決議された。

九州・沖縄支部ではこれからも会員のニーズに合わせて情報公開に努めるとともに、音楽療法の本質や、あるべき姿を追求するべく内容を吟味した講習会や研究発表を行っていく予定である。2005年度支部大会は、2006年3月5日（日）にアクロス福岡（福岡市）で開催予定である。会員多数の参加を期待している。

学会事務局からのお知らせ

■ 訃報

去る5月18日、元理事 河野友信先生が、6月2日、顧問 山松質文先生が、共にご病気のため逝去されました。ご功績を称え、ご冥福をお祈りいたします。

■ 第6回学術大会の開催日程の変更について

学会ニュース9号の17ページでお知らせしました日程が、次のとおり変更となりました。(2ページ参照)

2006年8月25日(金)・26日(土)・27日(日)(ホームページ掲載の記事は修正済み)

※大会案内は順次お知らせします。

■ 第7回学術大会の日程と開催地決定について

年月日：2007年9月7日(金)・8日(土)・9日(日)

開催地：北海道札幌市(会場未定)

■ 音楽療法士求人情報提供のお願い

音楽療法士の求人情報を学会ホームページに掲載することになりました。有償のものに限定しますが、常勤・非常勤は問いませんので、求人情報を事務局へお寄せください。

これは情報を提供するだけのもので、就職の斡旋をするものではありません。

■ 2005年度資格審査を申請された方へ

2005年10月17日までに提出された申請書につきまして現在審査中です。審査結果は11月末日までに通知されます。書類審査合格者は面接試験(12月17日(土)13時～16時、または12月18日(日)10時～16時のいずれか1日、約10分間)が東京にて実施されます。

最終審査結果は2006年2月初旬に通知されます。

■ 2005年度資格更新審査および猶予を申請された方へ

2005年10月31日までに提出された更新及び猶予申請の審査結果は2006年2月初旬に通知されます。

■ 「資格認定規則（申請書）」および「資格更新規則（申請書）」の取り寄せについて

240円切手を貼付した返信用封筒（A4サイズ、宛先明記）と500円の定額為替（郵便局にて購入）を同封して、学会事務局へお申し込みください。

※「音楽療法士認定規則」の配布は会員限定ですので、非会員の方は入会手続き完了後の取り寄せとなります。

※資格更新の該当の方には当該年度の5月上旬、全員に事務局から送付しますので取り寄せは不要ですが、早く入用の方は上記認定規則と同じ方法でお取り寄せください。

■ 「カリキュラムガイドライン01」の取り寄せについて

120円切手を貼付した返信用封筒（B5サイズ、宛先明記）を同封して、学会事務局へお申し込みください。

■ 会員名簿について

個人情報保護法に関連して、会員名簿の発行を当面見合わせるようになりました。

■ 学会誌バックナンバーのお求めについて

日本音楽療法学会、日本バイオミュージック学会及び臨床音楽療法協会の学会誌のバックナンバー購入につきましては、学会事務局では取り扱っておりませんので下記へお問い合わせください。

〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-21 アカデミア・ミュージック株式会社

TEL：03-3813-6751 FAX：03-3818-4634

■ お詫びと訂正

学会ニュース9号18ページ下、関東支部記事に誤記がありました。お詫びして訂正します。

開催場所のうち 誤…須加学園教育会館 → 正…須賀学園教育会館

■ 会費（年会費）納入のお願い

年会費は年度内にお納めいただきますようお願いいたします。昨2004年度分未納の方はそのまま放置されますと、2006年3月末にて会費未納退会となります。この場合再入会はできません。

正会員 10,000円 学生会員 6,000円

購読会員 6,000円 賛助会員 50,000円／1口

振込先 郵便振替口座 ○ 加入者名：日本音楽療法学会

○ 口座番号：00120-9-657711